

キンカンの収穫剤について

永 友 英 二

(宮崎県総合農業試験場)

NAGATOMO, E.

On the Abscission Chemicals of Kumquat

キンカン栽培では、収穫に多くの労力を要することが最大の難点であり、この省力化は、そろった果実を生産することと共に、最も望まれている点である。現在カンキツ類の収穫剤としては、ハッサクに対してのエスレルが実用化されているだけであり、エスレルのキンカンに対する適用性を検討したので報告する。

1. 試験方法

1) 離層形成効果試験 7年生ニンボウキンカンを用いて200ppm, 300ppm, 400ppmの1回散布区(11月25日散布)と、1回目(11月25日散布)に200ppmを散布して、2回目(12月1日散布)に200ppm, 300ppm, 400ppmを反復散布した区を設定し、12月11日に採収し調査した。

2) 貯蔵試験 6年生ニンボウキンカンにて100ppm, 200ppmのそれぞれ反復散布区、無散布区を設け、手もぎによって採収し、普通貯蔵区と、ポリエチレン袋(厚さ0.03mm)貯蔵区を設定した。なお、無散布区には、ハサミ採取区も設定した。

2. 試験結果

1) 離層形成効果は、高濃度ほど、また1回散布よりも2回散布の方が良く、特に1回目に200ppmを散布して、2回目に300ppm, 400ppmを散布した区が有効であった。また、落果率も、離層形成効果と同一傾向で、高濃度ほど高かった。着色は、いずれの散布区も、無散布区より良かった。落葉率は、200ppm~400ppm区は15.8%と高かったが、200ppm~200ppm区は5.9%、200ppm~300ppm区は7.5%と比較的少なかった。

2) 貯蔵については、12月中旬に採取して、2月中旬までの貯蔵の場合、普通貯蔵では減量が多く、果皮が萎凋して品質の低下が著るしかったが、ポリ袋を使用すれば減量はごくわずかで、品質をそのまま保つことができ

第1表 離層形成効果

項目 濃度	剝皮の程度				落果率	落葉率	平均着色	
	完全	へた付	軽	甚				
200—ppm	56.5	2.9	24.6	16.0	7.3	12.5	9.5	
300—	76.1	0	14.6	9.3	16.0	14.6	9.6	
400—	85.4	0	10.3	4.3	22.3	13.6	9.6	
200—200	78.3	0.8	10.8	6.1	9.0	5.9	9.0	
200—300	93.1	0	5.6	1.3	23.7	7.5	9.3	
200—400	94.4	0.8	3.6	1.2	42.1	15.8	9.7	
無散布	0	17.1	22.2	60.7	0	1.9	8.0	
L.S.D	5%	22.9	7.3	10.6	12.9	14.2	NS	0.6
	1%	30.9	9.8	14.3	17.4	21.8		

た。

まとめ

以上のことから、収穫前にエスレル(1回目に200ppm, 2回目に200ppm~300ppm)を散布することによって、80~90%の完全離層形成効果が得られ、着色を良くし、収穫の省力化をはかることができる。

第2表 貯蔵試験

項目 エスレル濃度 区	採取方法	供試果数	1月22日		2月19日	
			腐敗	減量	腐敗	減量
普通貯蔵	100ppm(2回)	129	0.8	13.6	4.7	20.0
	200ppm(2回)	116	0	13.5	0	19.3
	無散布	145	0	13.0	2.1	19.5
	無散布	62	0	13.3	0	19.2
ポリ袋貯蔵	100ppm(2回)	148	0.7	0.8	4.7	1.6
	200ppm(2回)	112	0.9	0.8	11.6	0.8
	無散布	147	2.0	0.8	23.1	0.8
	無散布	64	0	0.8	0	0.8